

令和4年度上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会

第2回入退院時連携推進部会を開催しました



- 8月30日(火) オンラインにて、第2回入退院時連携推進部会を開催しました。参加者は部会メンバー7人、事務局4人の他、県医師会在宅医療推進センターコーディネーターが傍聴で参加しました。
- 7月21日(木) に実施した在宅医療・介護連携推進協議会の振り返りを行い、その後、更新した医療機関連携窓口一覧表の確認、11月29日(火) 開催予定の研修会について各々の立場から意見交換を行いました。

【医療機関連携窓口一覧表について】

- ・ 連携が必要な職種はケアマネだけではなく、職種を限定せず、地域で広く活用していけると良い。

【研修会について】

●在宅の立場

- ・ 新規申請の方は、情報が不足していることが多いので病院の情報が重要になる。しかし、退院後に自宅で暮らしていけるか、医療側と在宅側で意見のすり合わせが難しい。研修で互いの職種への理解を深めていけると良い。
- ・ 以前、事例を用いた研修会に参加した。事例を踏まえた話し合いを行ったことで、学びがより深まったと感じている。

互いの職種の視点や考え方を理解する方法として、事例を用いるのはどうか。

- ・ 感染が拡大している状況なので、オンラインで研修をした方が良い。

●医療の立場

- ・ 連携の大切さを頭では理解しているが、患者さんの退院に向けて在宅側ではどのような動きを取っているのか医療側の立場では分からないことも多い。研修を通して在宅側の働きを知ること、どのような情報を必要としているか、情報提供時に医療側は何に気を付けると良いかより考えることができる。
- ・ 事例を用いた研修を行う場合、切り口を絞った方が良いと思う。
- ・ 昨年度の研修では、グループワークを通して互いの仕事内容や思いを知ることができた。職種の垣根を越えた理解を深めるためには、グループワークが必要だと思う。
- ・ 初めてのオンライン研修になるので、人数を限定して開催した方が良い。入退院時連携は永遠の課題であり、研修を一回したから完成するものではない。今回は人数を限定して行うが、次年度以降も継続的に研修を行えると良い。

【まとめ】

- ・ 人数を限定し、オンラインで研修を行う。
- ・ 事例とグループワークを活用した研修を行う。

【次回について】

- ・ 研修会の振り返りを行い、3年間の活動評価、次年度以降の取り組みについて検討します。

